

Lesson2

文型 (SVC) /このバッグ☆超かわいい(^_-)-☆

This bag is so cute.

今回のレッスンでは **SVC 型の代表的な動詞**である **be 動詞**について学習します。**SVC 型**では **S=C 型**という関係が成り立っています。日本語の「～は～です。」という形に似ているように見えますが、すべて同じではないので注意してください。「このバッグ☆超かわいい。(^_-)-☆」は **SVC 型**の文になります。

このレッスンを受講することで **be 動詞の SVC 型**について理解できます。

Topics

文型(SVC)/ This bag is so cute.

Topic1 SVC 型の構成と例文

- SVC 型の動詞 : be 動詞
- 補語
- 補語が形容詞の場合
- 補語が名詞の場合

Wrap-up

DVD 版では練習問題の解説も行います。

This bag is so cute.



■ Topic1

SVC 型の構成と例文

SVC 型には **SV 型**にはない **C**がついています。**SV 型**と同様、**S**は「主語」、**V**は「述語動詞」を意味します。**SVC 型**の **C**は「補語」のことを意味します。

●SVC 型の動詞 : be 動詞

be 動詞は代表的な **SVC 型の動詞**です。**Mary is a nurse.**「メアリーは看護師です。」では「メアリー」=「看護師」の関係が成り立ち **SVC 型**の文となっています。

このように **be 動詞**は = (イコール) の意味になります。

●補語

The plan is good.「その計画は良いです。」では **good** (形容詞) が**補語**となります。

また、**Tom is an accountant.**「トムは会計士です。」では **an accountant** (冠詞+名詞) が**補語**となっています。ここの**補語を取り The plan is. / Tom is.** などとしても文は**成り立ちません**。このように **SV** だけでは足りない情報を補う語のことを**補語**といいます。**形容詞または名詞に相当する語句が補語**になります。

The plan is good. ← **the plan = good**

Tom is an accountant. ← **Tom = an accountant**

●補語が形容詞の場合

「主語」=「形容詞」の関係が成り立つ時、**形容詞を補語**にとります。

Their offer is reasonable. 「彼らの申し出は妥当です。」

主語(S) 代名詞+名詞 their offer (彼らの申し出)	述語動詞(V) be 動詞 is (です)	補語(C) 形容詞 reasonable (公平な)
--------------------------------------	--------------------------	-------------------------------

The salesperson was nice to us. 「その販売員は私たちに親切でした。」

主語(S) 冠詞+名詞 the salesperson (その販売員)	述語動詞(V) be 動詞 was (でした)	補語(C) 形容詞 nice (親切)	追加情報 前置詞+代名詞 to us (私たちに)
---	----------------------------	------------------------	------------------------------

The architect was interested in our project.

「その建築家は私達のプロジェクトに興味を持っていました。」

主語(S) 冠詞+名詞 the architect (その建築家)	述語動詞(V) be 動詞 was (でした)	補語(C) 形容詞 interested (興味を持っている)	追加情報 前置詞+代名詞+名詞 in our project (私達のプロジェクトに)
---	----------------------------	---------------------------------------	---

●補語が名詞の場合

「主語」 = 「名詞」の関係が成り立つ時、**名詞を補語**にとります。**The woman on the left is a teacher.** 「左側の女性は先生です。」

主語(S) 冠詞+名詞+(前置詞+冠詞+名詞) the woman (on the left) (左側の女性)	述語動詞(V) be 動詞 is (です)	補語(C) 冠詞+名詞 a teacher (1人の先生)
--	--------------------------	----------------------------------

We are accountants. 「私たちは会計士です。」

主語(S) 代名詞 we (私達)	述語動詞(V) be 動詞 are (です)	補語(C) 名詞 accountants (会計士)
----------------------	---------------------------	-------------------------------

The current situation is a problem. 「現在の状況は問題です。」

主語(S) 冠詞+形容詞+名詞 the current situation (現在の状況)	述語動詞(V) be 動詞 is (です)	補語(C) 冠詞+名詞 a problem (一つの問題)
--	--------------------------	----------------------------------

スコアアップ!

(DVD 版のみ収録)



●SVC 型は補語に名詞か形容詞に相当する語句が入る。

(例題) The participants are _____.

- a. do
- b. shall
- c. young
- d. projects

例題は **be** 動詞に何を付けるかを問う問題です。**be** 動詞は **SVC** 型、進行形、受身形などを導くため、これらの可能性について考えてみます。選択肢を見てみると **a. do** (助動詞、動詞) **b. shall** (助動詞) **c. young** (形容詞) **d. projects** (名詞 or 動詞) となっていることが分かります。選択肢には進行形に必要な **ing** 形や受身形に必要な過去分詞がありません。そこで、**SVC** 型になるかどうか確認してみます。補語になるのは名詞や形容詞に相当する語句ですから、**young** (形容詞) か **projects** (名詞) のどちらかが答えになりそうだと絞り込めます。意味を考えてみると **The participants are** … は「参加者達は～です。」となるようです。**young** 「若い」(形容詞) を入れてみると「参加者達は若いです。」という文が成り立ちます。でも、**projects** 「プロジェクト」(名詞) を入れても **the participants** 「その参加者達」 = **projects** 「プロジェクト」(名詞) という関係は成り立ちません。

ここでは **young** という比較的簡単な単語が答えになっていますが、簡単な単語は答えにならない、などと省いてしまうと間違いが多くなることがあるので注意してください。

I am katsudon. 「私はカツ丼です。」

I **SVC** 型の文は日本語の「～は～です」に似ているように思えますが、すべて同じではありません。日本語ではレストランで「私はカツ丼です。」などと注文をすることができますが、英語で **I am katsudon.** とすると私 = カツ丼の意味になってしまいますので注意してください。

注文するときは **Katsudon, please.** などと言うと良いです。

コーヒーブレイク (DVD 版のみ収録)

Wrap-up

- SVC型はS=Cと考えることができる。
- 補語(C)には名詞または形容詞に相当する語句が入る。



This bag is so cute.

「このバッグ☆超かわいい(^_-)-☆」

主語(S)	述語動詞(V)	補語
this bag (このバッグ)	is (です)	so cute (とてもかわいい/超かわいい)

Practice

先生の解説を聞き、下記の練習問題を解いてみましょう。(DVD版のみ収録)

1. Their presentation was _____.
 - a. informative
 - b. information
 - c. informant
 - d. informed
2. He is _____.
 - a. a high school
 - b. a high school teacher
 - c. high school teachers
 - d. high school classes
3. Most people are _____ about the decision.
 - a. happy
 - b. happily
 - c. happiness
 - d. happy birthday

Homework

このレッスンに関連した下記の練習問題に挑戦してみましょう。

1. _____ are tired of his speech.
 - a. Listens
 - b. Listeners
 - c. Listened
 - d. Listening
2. The closure of the factory _____.
 - a. sad
 - b. is sad
 - c. sadness
 - d. is sadness
3. Some of the researchers were _____.
 - a. results unhappy
 - b. unhappy results
 - c. unhappy the results
 - d. unhappy about the results

Explanation - Practice

1. **Their presentation was informative.** 「彼らのプレゼンテーションは参考になった。」

解説 : **a. informative** 「参考になる」(形容詞)を入れると意味のとおり **SVC** 型の文が成り立ちます。まずこの問題文には **be** 動詞があり、その直後が空欄になっている所から典型的な **SVC** 型の文であるということを見極めます。そして、主語を補う補語として適切であるものを選択肢から選びます。

b. information 「情報」(名詞)と **c. informant** 「情報提供者」(名詞)では **S=C** が成立しません。

d. informed 「知らせた」(動詞の過去形・過去分詞)・「知識のある」(形容詞)では、**their presentation = informed** とはならないため **d.** は選ばれません。

2. **He is a high school teacher.** 「彼は高校の先生です。」

解説 : **b. a high school teacher** 「高校の先生」(名詞)を入れると **S=C** の関係が成り立ちます。

まずこの問題文でも **be** 動詞があり、その直後が空欄になっている所から典型的な **SVC** 型の文であるということを見極めます。そして補語には形容詞または名詞に相当する語句が使えます。ただし、選択肢を見ると、すべて名詞に相当する語句となっています。そこで主語の **he** 「彼」とイコールの関係が結べることを前提に、ここではその意味から検討をします。

a. a high school 「高等学校」(名詞)では **S=C** の関係がなりたちません。**c. high school teachers** は複数形なので **S=C** の関係が成り立ちません。**d. high school classes** 「高校の授業」(名詞)も複数形ですし、彼は授業ではないのでダメです。

3. **Most people are happy about the decision.** 「多くの人達はその決定に満足しています。」

解説 : **a. happy** 「うれしい、満足して」(形容詞)を入れると **SVC** 型の文が成り立ちます。

この問題文でも **be** 動詞があることから、その直後に主語を補う語が来ることを予想します。

補語は形容詞または名詞に相当する語句を入れるので **b. happily** 「喜んで」(副詞)は入れられません。

c. happiness 「幸福」(名詞)、**d. happy birthday** 「お誕生日おめでとう」(名詞)では **S=C** の関係がなりたちません。

Explanation - Homework

1. **Listeners are tired of his speech.** 「聞いている人達は彼のスピーチに飽きています。」

解説 : **b. Listeners** 「聞き手、聞いている人」(名詞)を入れると文意がとおりです。**be tired of** ～で「～に飽きている」の意味になります。

まず、この問題文で主語が抜けていることが分かります。そこで主語として使えるもの(**I** のように代名詞(主格)、**(the) man** や **visitor(s)** のように名詞、その他にも動名詞、不定詞、名詞節など)があるかどうかを探します。また、上記 **be tired of** ～の意味から、「誰が」飽きているのか?と想像します。

a. Listens 「聞く」(動詞)の三単現(三人称単数現在形)の **s** がついた形ですが、主語にはなれません。

c. Listened 「聞いた」(動詞の過去形)も主語にはなれません。**d. Listening** 「聞くこと」(動詞の **ing** 形)は動名詞として主語になることはできませんが、下線部に入れても意味がとおりません。

2. The closure of the factory is sad. 「その工場の閉鎖は寂しいです。」

解説 : **b. is sad** 「寂しいです」 (**be** 動詞+形容詞) を入れると **SVC** 型の文になります。 **the closure of the factory** のところは **of the factory** 「その工場の」という補足説明を **the closure** 「閉鎖」につけて「工場の閉鎖」という意味になっています。

この問題文には主語しかありません。そこでまず述語動詞が入る **SV** 型である可能性を検討します。しかし選択肢の中に含まれる動詞はすべて **be** 動詞であることから、**SV** 型ではなく、**SVC** 型であると判断します。

まず **a. sad** 「寂しい」(形容詞)、**c. sadness** 「寂しさ」(名詞) では動詞がないので文が成り立ちません。残った **d. is sadness** 「寂しさです」(**be** 動詞+名詞) では **S=C** の関係が成り立ちません。

3. Some of the researchers were unhappy about the results.

「その研究者の中の数人はその結果には不満だった。」

解説 : **d. unhappy about the results** 「結果について不満で」(形容詞+前置詞+名詞) を入れると **SVC** 型の文が成り立ちます。 **some of the researchers** では **some** 「いくつか、数人」(代名詞) **some of** ~で「~のうちいくつか/数人」の意味になります。そのため、**some of the researchers** で「その研究者の中の数人」という意味になります。問題文には **be** 動詞があります。そこで「その研究者の中の数人は」どうだったのか? という意味を考えます。選択肢をみると、なんとなく結果について不満だったであろうことが想像できます。そこで一つずつ詳しく検討します。

a. results unhappy 「結果 不満な」(名詞+形容詞)、**c. unhappy the results** 「不満な その結果」(形容詞+名詞) ですが語順に誤りがあります。 **unhappy** に **the results** を直接つなげる事はできません。間に **with** などの前置詞が必要です。また、**the unhappy results** とすれば正しい語順です。

b. unhappy results 「不満足な結果」(形容詞+名詞) の語順は正しいですが、**Some of the researchers = unhappy results** という関係が成り立ちません。あくまでも、不満だったという感覚と「研究者の中の数人」がイコールになるのです。